

令和6年度 学校評価表

(中間・最終)

学校名 三原市立第二中学校

校番(2)

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し、次代を担う生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	-----------------------	----------------------	--

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	基礎学力の定着と個別最適な学びの充実	○思考力・判断力・表現力等の育成をめざした授業改善 ○家庭学習の習慣化と授業への活用 学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※授業がよくわかる／家庭学習の項目「1.3.4」	90%	90.7% 84.4% 66.2%	88.6% 85.8% 63.4%	98.4% 95.3% 70.4%	B	・授業がよくわかる／家庭学習の2項目とも昨年度と比較して上回っている。 ・特に授業がよくわかるの項目では、昨年度末の80.5%に対し今回は88.0%であり、7.5ポイント上回っている。	・管理職からの指導や1人1授業研究での取り組みをもとに、日々の授業改善を行なっていく。 ・家庭学習の取り組みについて、研究部を中心に具体的な取り組み等を協議していき、方向性を考えていく。	○			・生徒の授業態度の変化がみられ、有意義である。 ・確かな学力、家庭学習の取り組み方法について、校内での工夫改善がなされている。定着への手立てをICTの活用等も含め今後も改善し、習慣化できるように取り組む工夫をしてほしい。
		ICT機器を積極的に活用した学習活動	○ICT機器を積極的に活用した学習活動 学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※ICT機器の項目「11」	90%	95.6%	90.5%	100.6%	A	・ICT機器の項目は今回90.5%であり、昨年度末の81.8%から8.7ポイント上回っている。	・授業だけでなく、家庭学習で使用したり、自学自習のためのツールとしてさらに活用するなど効率的に活用することで生徒に基礎学力をつける取り組みをしていく。	○			
		学習分析を基にした授業改善と探究的な学習(PBL)の充実	○学習分析事業等による定着状況の把握と改善に向けた取組 ○総合的な学習の時間での生徒の主体的な学習の場の設定 学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「6.7」	70%	84.7% 72.9%	85.8% 70.5%	122.6% 100.7%	A	・どの項目においても目標値を超え、おおむね高い数値であった。特に、「ピア学習やグループ学習では、自分の考えを伝えたり、人の意見を聞いたりして学習を深めています。」というアンケートに肯定的に答えた生徒の割合は85.8%であった。	・今後も研究部を中心に、学力向上や主体性の向上に向けて取り組みを進めていく。授業改善と探究的な学習の充実について研修を重ねていく。	○			
豊かな心・健やかな体	人に愛される生徒の育成	○生徒指導・教育相談活動の推進	○生活四訓の徹底 ○デイリーの取組やいじめアンケートの実施による状況把握 ○SC,SSWを含めた組織的な対応 学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※自らあいさつ「5」 不登校の人数	80% 6%以下	76.3% 3.5%	69.6% 7.8%	87.0% 98.1%	B	・あいさつについての肯定的な評価は昨年度末70.6%であり、16.4ポイント上回っている。 ・不登校生徒数は1月末の段階で29名である。	・体育大会等の行事や生徒会活動として取り組んでいる。部活動ごとのあいさつ運動を今後も生徒会と連携しながら進めていく。 ・不登校に関して、各担任・SSW及びSC等と教育相談委員会等で連携をとりながら組織的な対応を継続して行なっていく。	○			・積極的に挨拶をする生徒もいるが、全体としてはおとなしく感じる。 ・生徒の考える力を引き出そう、伸ばそうとする先生方の姿勢がよく分かった。
		○道徳教育の充実	○協働的な学び合いの場を仕組み議論する道徳の授業改善 学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「12.13」	90%	80.6% 89.2%	83.8% 93.3%	93.1% 103.7%	B	・道徳の授業が好きだと感じる生徒は93.1%で昨年度末の70.6%より22.5ポイント上回っている。 ・道徳の授業の必要性や生きていく上で大切なことを学んでいるという意識は89.2%の生徒が感じており、昨年度末より約14ポイント上回っている。	・授業改善に関わる校内全体での研修の充実を図る。 ・経験年数の少ない教員の参考となるよう、授業参観の機会を持ち、授業イメージを確立させる。	○			・生徒が落ち着いた授業へ参加し学習する姿が見られた。 ・授業者の問いに対しての生徒の反応があり、学習に集中していた。
		○生徒会活動の充実	○生徒の主体的な場面の設定や肯定的評価 学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「7.9」	90%	92.1% 88.9%	90.0% 92.3%	100.0% 102.6%	A	・「委員会、係の仕事等に責任を持って取り組み達成感を感じている」は昨年度末の86.8%と比べ3.2ポイント、「学校行事などではみんなと協力し、一生懸命取り組み達成感を味わうことができる」は昨年度末の85.2%と比べ7.1ポイント増加している。	・生徒会役員・委員長と担当教員が連携を密に取ることにより充実した活動を目指す。また来年度に向けて活動内容の見直しを進め、生徒が活躍する場を増やしていく。また、自信をもって活動し一体感や達成感が得られるよう環境を整えていく。	○			・生徒の活動する姿が見られた。
働き方改革の推進	生徒と向き合う時間の確保	○効率的な業務改善の推進	○業務のスクラップ＆ビルドによる業務改善 ○週に1日5時間授業の設定と定時退校日の設定 学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※教職員の業務改善の項目「8」	90%	71.5%	88.2%	98.0%	B	・「少しでも早く退校できるように業務改善に努めている」というアンケートに肯定的に答えた教職員の割合は88.2%であった。 ・水曜日を部活動休業日・定時退行日、5校時の日として取り組んでいる。2学期から時程を変更し、原則17時完全下校、部活動の時間確保のため火・木曜日を掃除なしの日へと変更する等、業務改善を進めている。	・準衛生委員会で全職員に対し、業務改善に関するアンケートを実施し、取り組みの検討・実施する役割を分担したところである。今後実施に向けて取り組んでいく。 ・定時退校日に早く退校できるよう、日頃から意識して業務の計画を立てるようにする。	○			
		○長時間勤務の縮減	○学校組織のスリム化と業務スケジュール管理の徹底 在校時間50時間以内の者の割合	前年度比増	60.0%	61.3%	99.0%	B	・勤務時間外の在校時間が50時間以内である者は、1月末までのべ240名中147名、61.3%であった。昨年度末は60.7%であり、ほぼ同じ状況である。 ・昨年度に引き続き本年度も中核となる立場の職員の多くが転勤で入れ替わり混乱の中での業務のため、1学期は過半数の職員が50時間以上の超過勤務であったが、現在は減ってきており、徐々に成果が表れてきている。	・現在、職員から業務改善に関するアンケートを取り終えたところである。今後、さらに改善を進めていけるよう、アンケートの結果をもとに取り組んでいく。 ・学校行事等、今年度取り組んだことについては、行事終了後すぐに要項等の修正を行い、次年度のフォルダに保存しておくことで、先を見通した業務改善としていく。	○			・働き方改革について、学校として検討し業務改善される方向性で取り組まれている。

【j:自己評価 評価】

A: 100≧(目標達成) B: 80≧(ほぼ達成) <100

C: 60≧(もう少し) <80 D: (できていない) <60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。

ハ:分からない。